

春季例大祭 子ども神楽奉納

今年も、明野町内の神社の春季例大祭にて、「こども神楽教室」の子ども達による神楽を奉納させていただきました。
 今年は、三嶋神社(上手)、宇波刀神社(北組)、諏訪大神社(浅尾新田)にて大和神楽を、白山神社(上神取)にて浦安の舞を奉納しました。



4月4日(日)

三嶋神社で子ども達が神楽を奉納させていただくのは今年が初めてです。「須佐男命すさのおのみことの舞」と「神じんの舞」を舞いました。「須佐男命の舞」を奉納した男の子は、初めての一人舞だったのですが、この1年でぐんと成長し、堂々と雄々しく、まさに荒ぶる須佐男命のように舞うことができました。

白山神社では、女子4名が、神社の氏子さん達に見守られる中「浦安の舞」を式典で奉納しました。今年舞った4名は昨年と同様のメンバーですが、舞を教えていただいている須玉町十五所神社の篠原いさを先生には、昨年練習したことをよく覚えていて、よりきれいに舞えている、と言っていました。また来年、より美しい舞を期待しています。



4月11日(日)

宇波刀神社では、「猿田彦命の舞」、「神の舞」、「玉取り」と3つの舞を奉納させていただきました。「こども神楽教室」で「玉取り」に取り組んだのは初めてです。

「玉取り」がどのような舞かというところこの舞はさくやひめ…木花咲耶姫(もしくは天照大神)から赤鬼・青鬼が玉を盗み、ふざけて遊び回っている。そこに須佐男命が現れ、鬼達を言い諭し、玉を取り返して姫に返す。姫・鬼達が神楽殿から去った後、須佐男命による舞。

木花咲耶姫・須佐男命・赤鬼・青鬼、全てを子ども達で演じることができました。小さな舞い手達に、たくさんの声援が飛んでいました。

諏訪大神社では、「猿田彦命の舞」、「四弓の舞」を奉納させていただきました。「四弓の舞」も、「玉取り」と同様、「こども神楽教室」で今年初めて取り組んだ舞です。4人の動きが揃えば揃うほどきれいに見えるので、どれだけ息を合わせられるかがポイントです。歩く早さや足を上げる高さなど、何度も繰り返し練習しました。本番では、その成果を発揮できたと思います。



平成21年度の「こども神楽教室」では、前年に引き続き、楽(篠笛・太鼓)の練習もしました。基本の楽「竹林」の笛を練習しましたが、予想以上に吹くことができ、指導者の先生も驚いていました。神楽全てを子ども達で、という夢の実現も、そう遠くないかもしれません。